

Q1：社外取締役の比率が高まったことで、どのような利点があったのか？

A2：ESGの専門家や公益事業者の方、他の業界の方もおられ多様性があり、取締役会の質疑応答も活性化した。
当社は117年の歴史がある会社だが、我々が当然と思っていることに対して、異なる視点でご指摘を頂ける。

Q2：フリーポート社公表の復旧時期に変更はないか？

A2：フリーポート社の最新公表は8月23日のもので「11月上～中旬の部分再開、3月までにフル稼働」となっている。現在、部分再開に向けて、規制当局への許認可の手続きと復旧工事を進めていると聞いている。

Q3：フリーポート火災事故の減益幅が、前回（8月）見通しと比べ300億円拡大している背景は？

A3：フリーポートプロジェクトからのLNG調達ができず、他社へのLNG販売に関わる契約が履行できない状況の中で、エネルギー価格指標が上がったことなどにより損失が拡大している。

Q4：セグメント別のROICについて、ROICを引っ張っている事業は何か？

A4：事業ポートフォリオの中で、既存事業をマネタイズする事業と投資を中心に伸ばしていく事業がある。投資をしないという意味では、アセットを持たないメーカーのROICが高くなる。投資をする事業では、サビンを中心とした上流事業のROICが高い数値になっていて牽引している。LBSでも都市開発、材料、情報事業がそれぞれ伸びてきており、今後ドライバーとなることを期待している。

Q5：今冬のLNG調達について、フリーポート火災影響、サハリンⅡなどの問題で調達が計画を下回る際の対策は？

A5：フリーポートの火災影響については、代替調達なども行っており、現時点で安定供給に支障はない。サハリンⅡからのLNG調達途絶は、どのようなタイミングで発出されるかも不透明であり、現時点で明確な回答はできないが、他プロジェクトからの代替調達を行うなど、安定供給に支障が出ないよう最善を尽くしたい。

注意事項：

本書に記載される情報は、将来の業績に関する見通し、計画、戦略などが含まれており、これらは現在入手可能な情報から得られた当社グループの判断に基づいております。実際の業績は、さまざまな重要な要素により、これら業績の見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。実際の業績に影響を与える重要な要素には、日本経済の動向、急激な為替相場・原油価格の変動並びに天候の異変等があります。